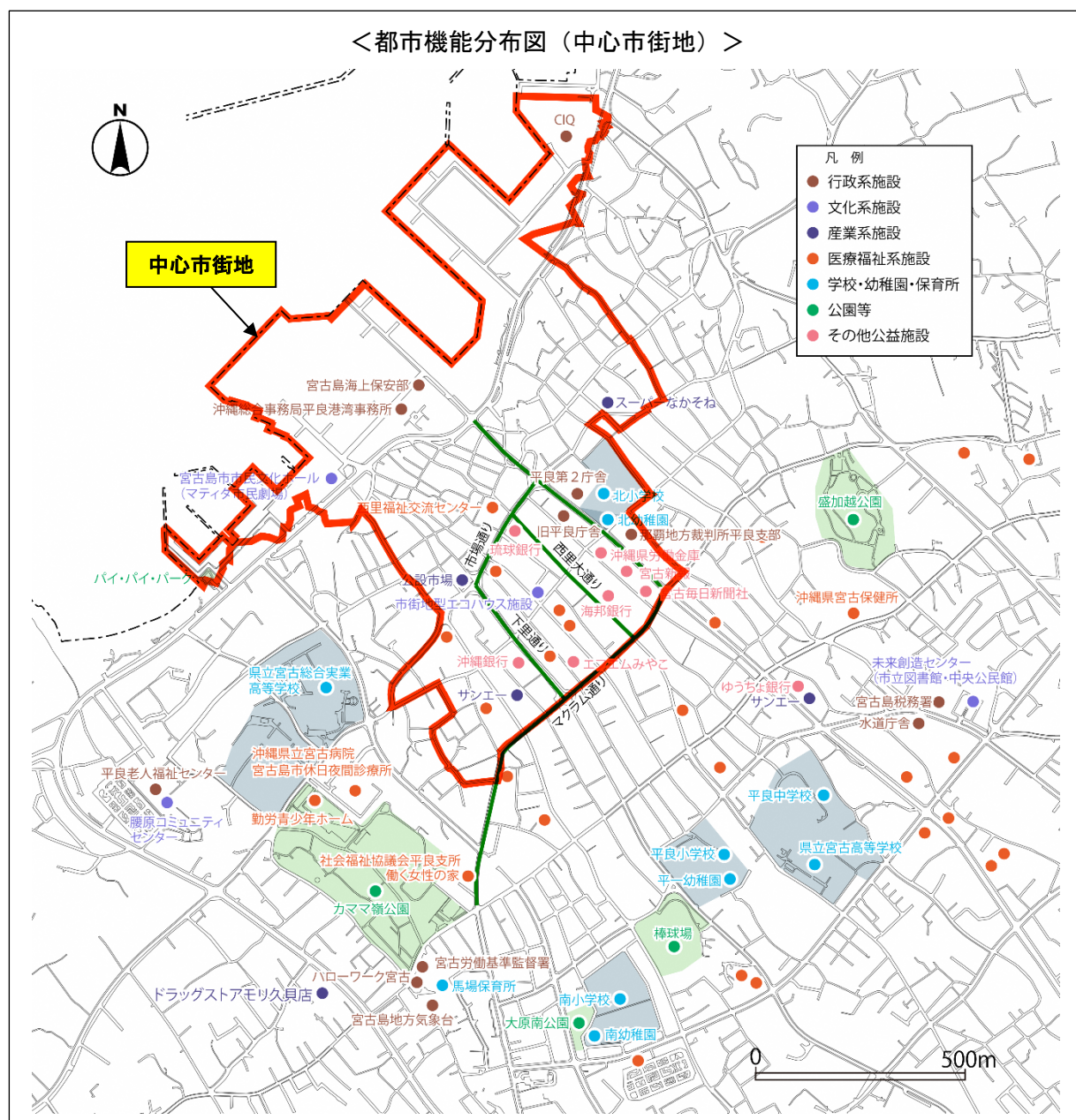


2-3 都市機能の状況

(1) 中心市街地の都市機能（公共公益・医療・福祉施設等）の分布状況

- ◆ 市内の都市福利施設は、多くが中心市街地とその周辺、また、宮古空港に近接した現在の市役所周辺に集積している。
- ◆ 中心市街地には、医療福祉系施設や銀行・マスコミなどが集積しており、中心市街地の周辺には、一定の敷地が必要な学校や病院、公園などが集積している。
- ◆ 2019年（令和元年）に市立図書館機能、2021年（令和3年）に平良庁舎機能が中心市街地の外へ移転している。市民サービスの核となっていた旧平良庁舎の有効活用が課題となっている。



＜新総合庁舎へ機能移転＞

本市では、これまで、分庁舎方式を採用しており、市内7箇所に本庁舎機能が分散し配置されていた。こうした中、市民サービスの効率性、駐車場の確保、バリアフリー対応、施設・設備の老朽化などの課題を有していたことから、2021年（令和3年）1月4日から、新総合庁舎に機能を集約している。

新庁舎は、宮古空港に隣接して新設され、中心市街地に位置していた旧平良庁舎は、建物の利活用について検討中であり、旧平良第2庁舎は、建物を解体し、跡地利用を検討中である。



旧平良庁舎

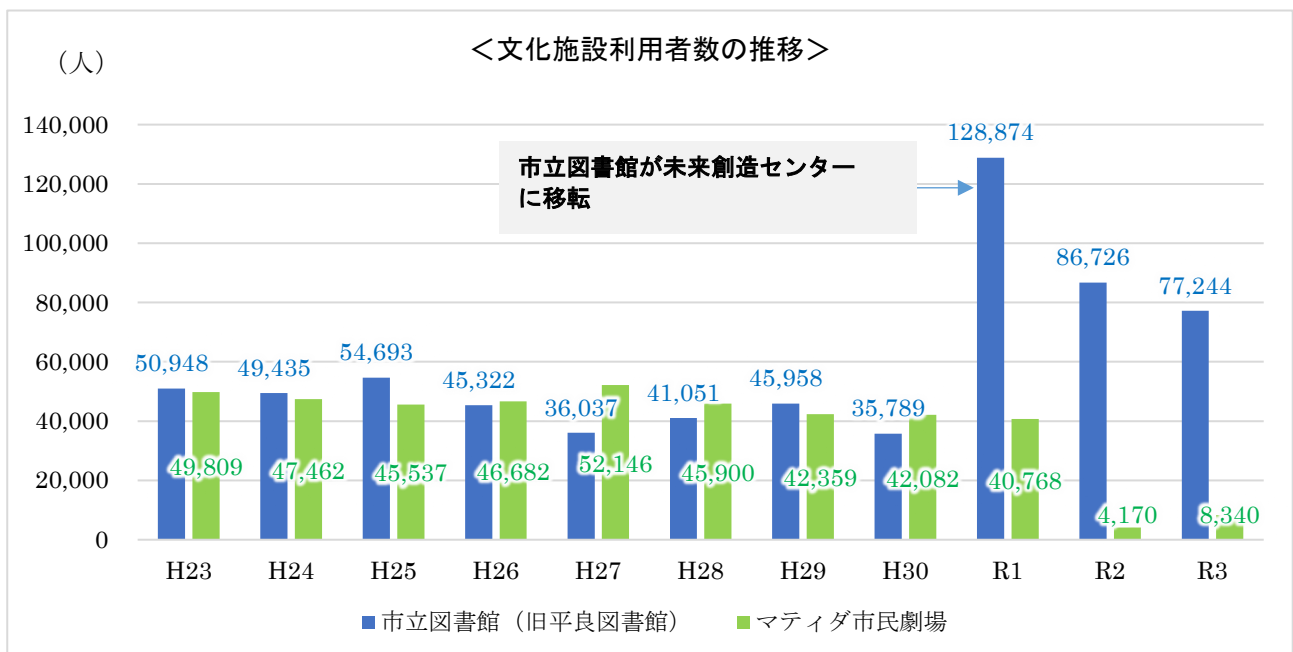


未来創造センター

出典：宮古島市立図書館 Facebook

＜市立図書館の移転＞

中心市街地の旧平良第二庁舎にあった市立図書館が、2019年（令和元年）8月に開館した未来創造センターに移転した。図書館と公民館を併設した宮古島初の複合施設で、多目的ホール、スタジオ、研修室、調理室などが設置されている。

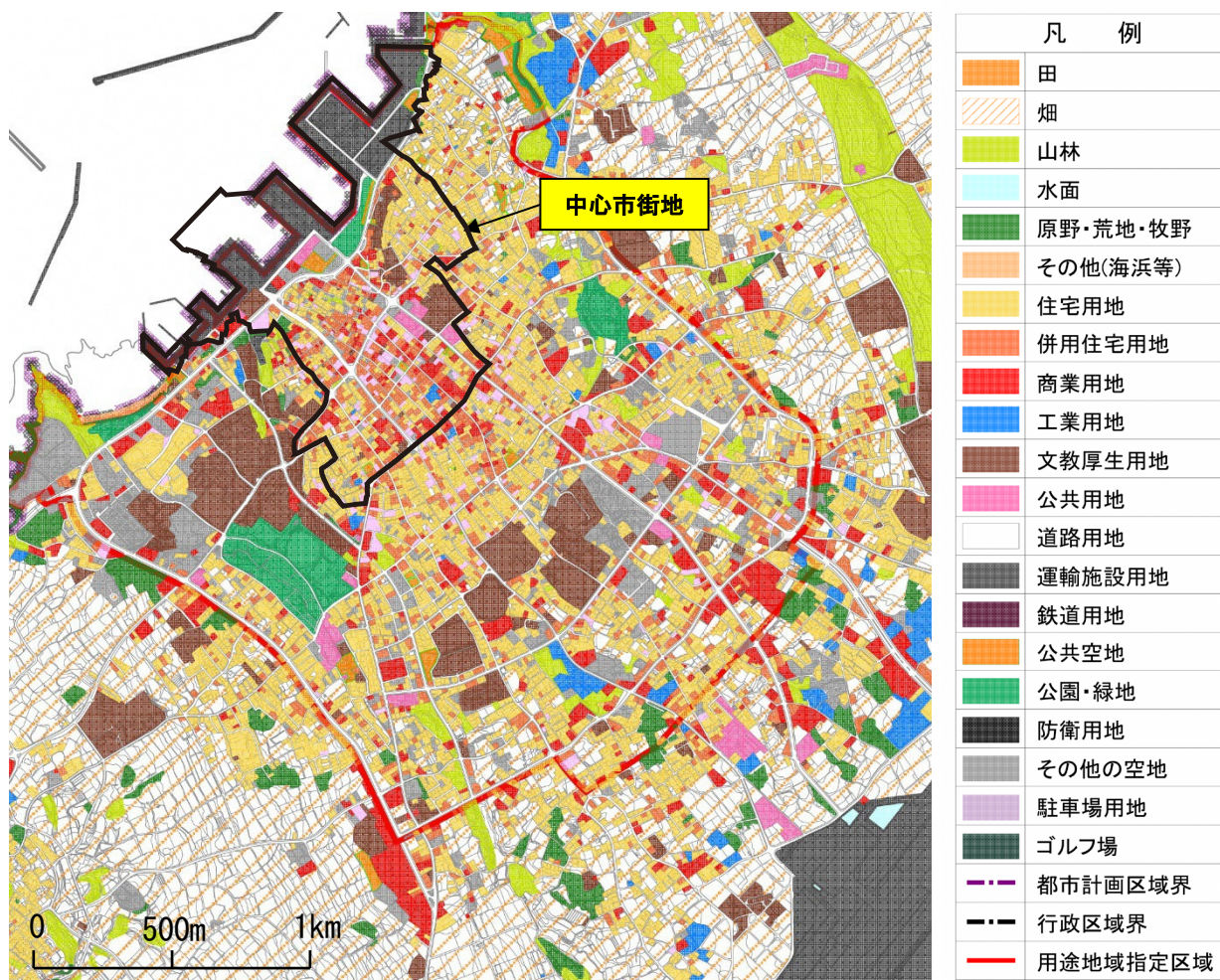


出典：統計みやこじま

(2) 土地利用

- ◆ 中心市街地の土地利用は、西里大通り、下里通り、市場通りに囲まれたエリアを中心に商業用地、併用住宅用地の集積が見られ、その後背には、住宅用地が広がっている。さらに、その後背に文教厚生用地が分布している。

<中心市街地の土地利用現況図>

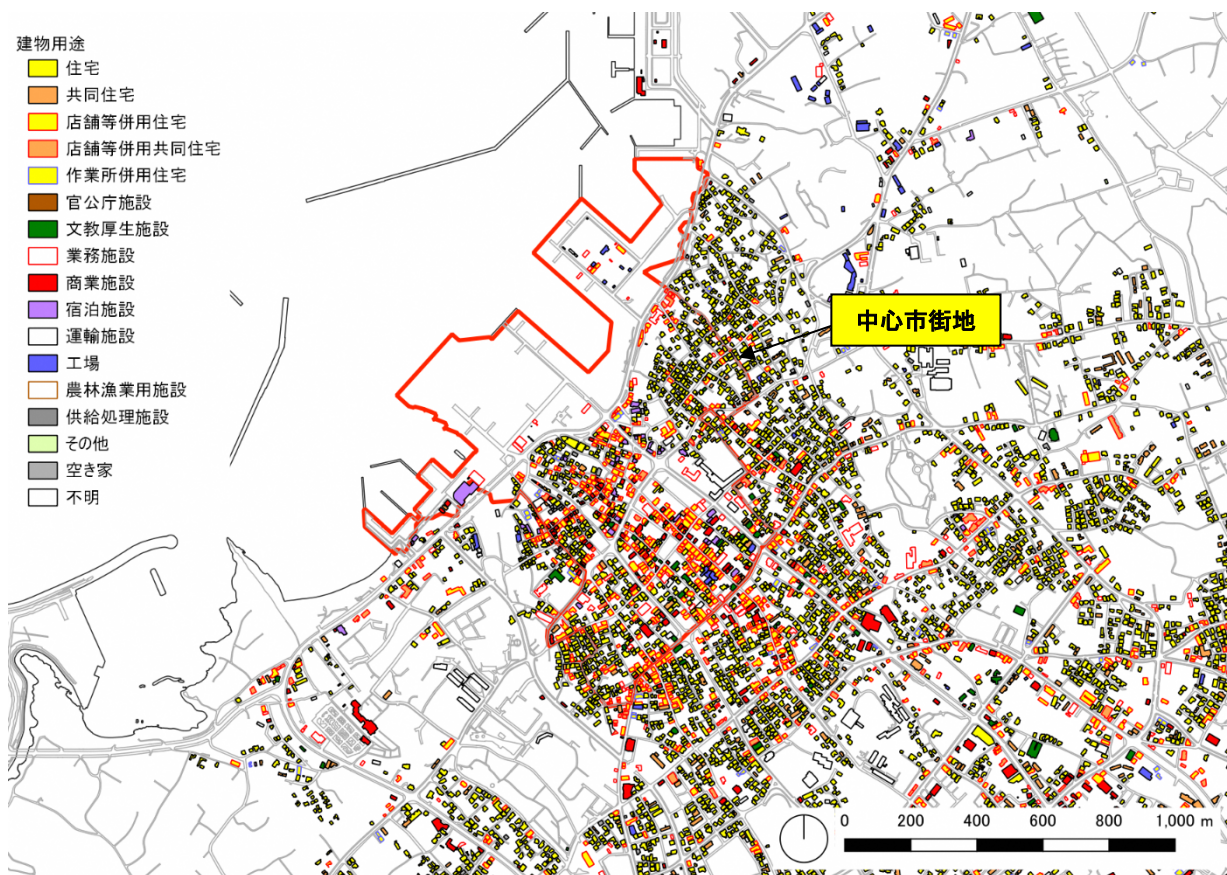


出典：平成 28 年度宮古島都市計画基礎調査

(3) 建物用途

◆ 中心市街地の土地利用は、西里大通り、下里通り、市場通りに囲まれたエリアから平良港にかけて、店舗等併用住宅を中心に広がっており、その中に商業施設や宿泊施設等が分布している。旧市街地には住宅を中心として分布している。

<中心市街地の建物用途現況図>

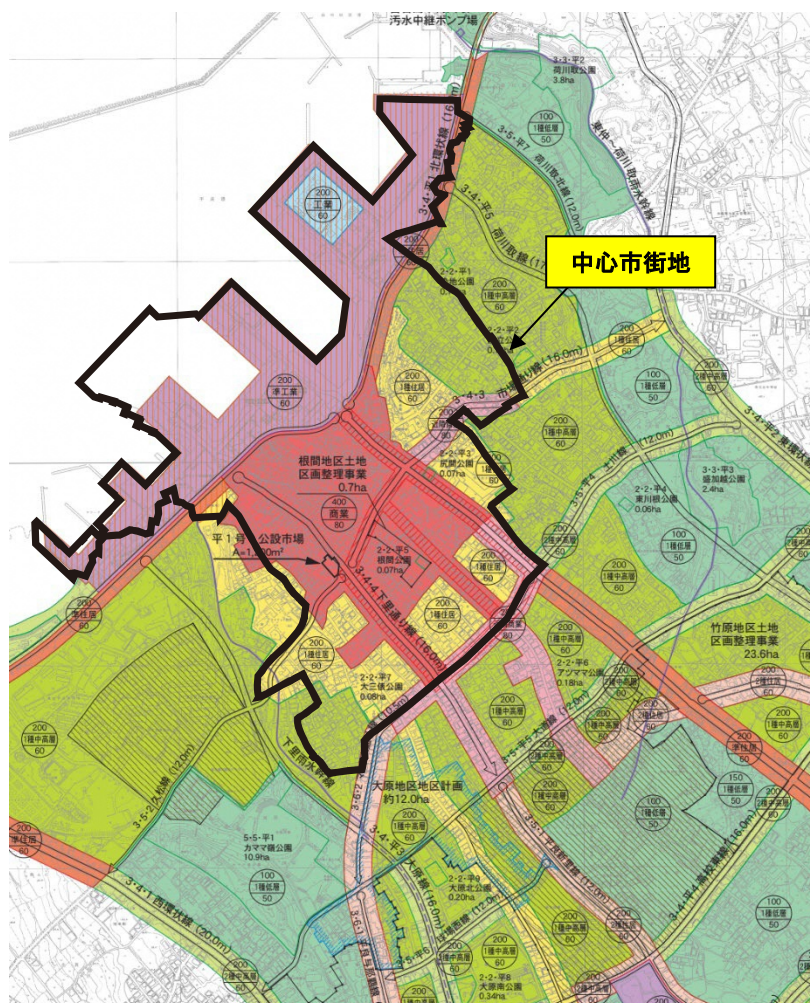


出典：平成 28 年度宮古島都市計画基礎調査

(4) 法規制（用途地域、土地区画整理、防火地区等）

- ◆ 中心市街地は、商業地域を中心に近隣商業地域、第一種住居地域、第一種中高層住居専用地域、準工業地域、工業地域の用途地域が設定されている。マクラム通り、西里大通り、下里通り、市場通りの一部が防火地域に設定されている。
- ◆ 根間土地区画整理事業が実施されているものの、根間公園は未整備となっており、中心市街地における交流拠点としての早期整備が課題となっている。

<中心市街地の用途地域図>



凡 例	
第一種低層住居専用地域	第一種中高層住居専用地域
第二種中高層住居専用地域	第一種住居地域
第二種住居地域	準住居地域
近隣商業地域	商業地域
準工業地域	工業地域
無指定地域	
学 校	
起 点 ・ 終 点	
都 市 計 画 道 路	
文 教 地 区	
土 地 区 画 整 理	
公 園	
臨 港 地 区	
防 火 地 区	
下 水 道 施 設 等	

出典：宮古島市都市計画図
(平成 27 年 3 月)

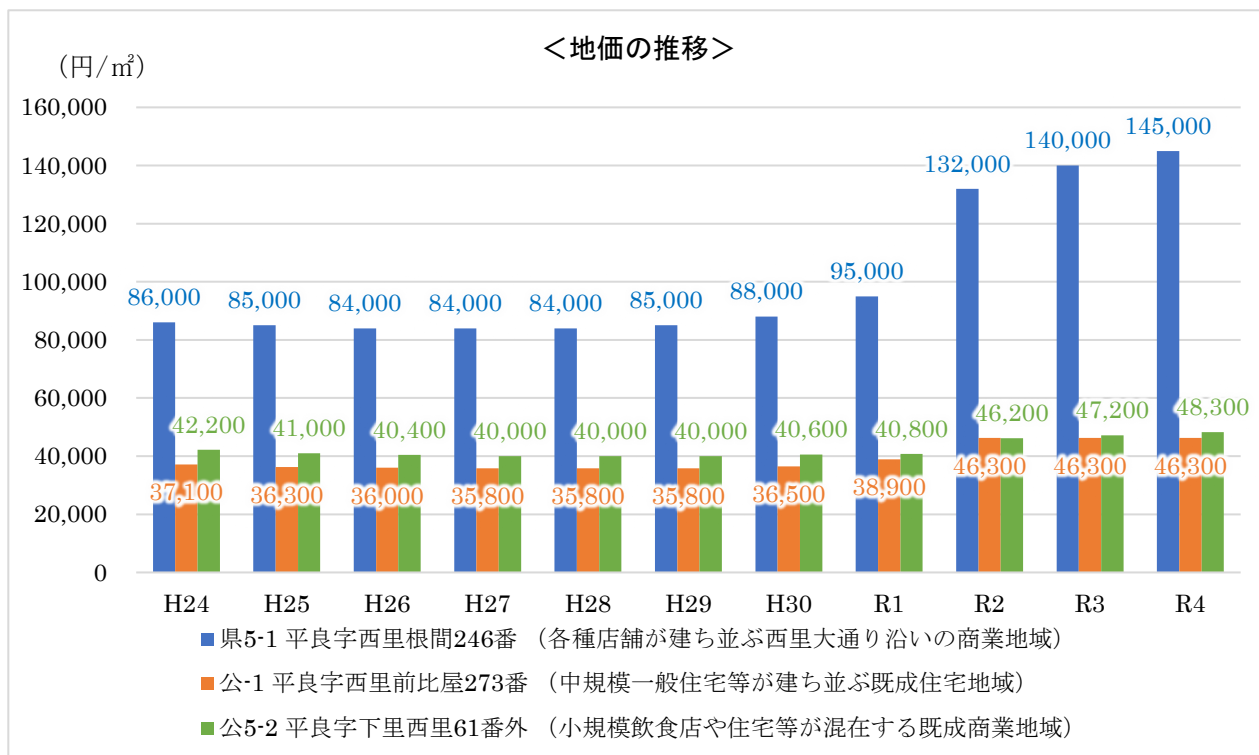
<根間地区土地区画整理事業>

名称	根間地区土地区画整理事業
面積	0.7ha
事業期間	H15～H21
主用途	住宅

出典：平成 28 年度宮古島都市計画基礎調査

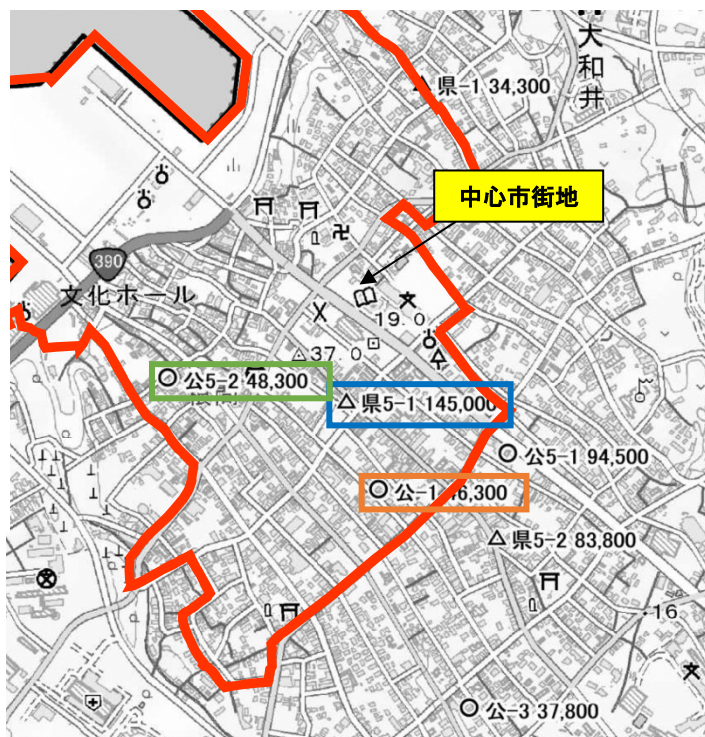
(5) 地価の状況

◆ 地価調査・地価公示によると、転入者が増えた2018年（平成30年）以降、地価の上昇が始まり、特に、宿泊施設などの建設が活発化している2020年（令和2年）以降、西里大通り沿いの商業地域の地価が急激に上昇している。



出典：沖縄県地価調査結果

＜地価調査・地価公示地点図＞



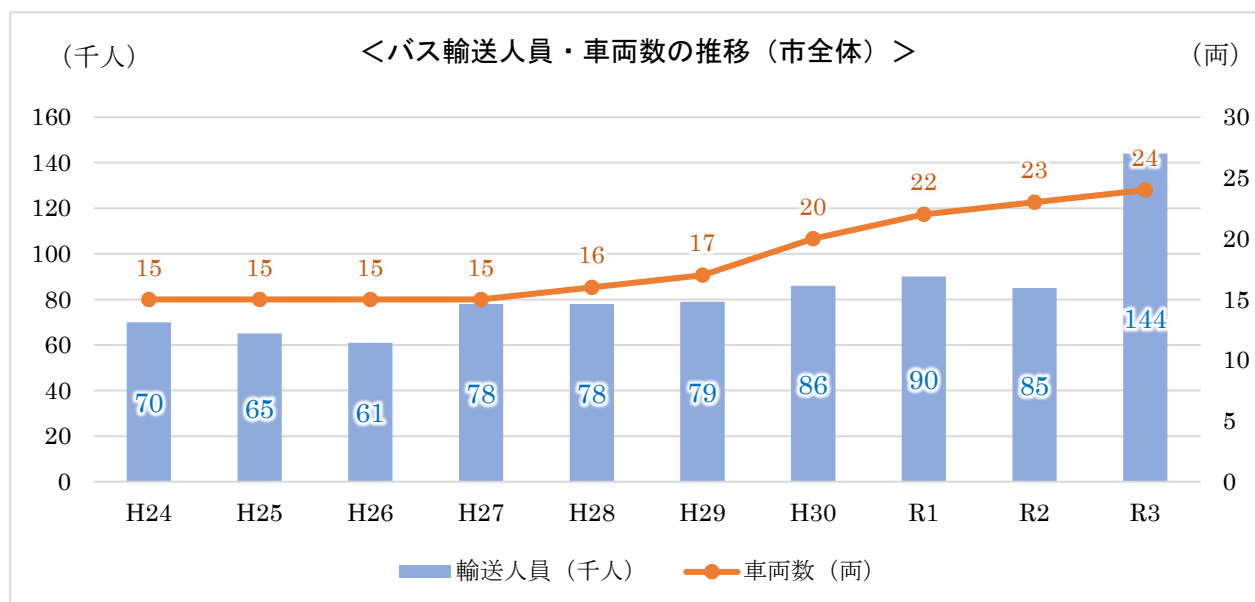
出典：沖縄県地価調査基準地位置図

2-4 道路・公共交通の状況

(1) 公共交通

①バス

- ◆ 公共交通機関として、4つのバス事業者（宮古協栄バス、八千代バス、共和バス、中央交通）による路線が提供されており、ほぼ全ての路線が中心市街地を通り、最も離れたバス停からでも概ね50分以内で中心市街地に到達する。
- ◆ バス利用者は、利便性が向上したことから、2015年（平成27年）以降増加傾向にあり、2021年（令和3年）で144千人となっている。令和2年の観光客数の減少の影響が少ないことから、市民の利用が主体となっていると推察される。
- ◆ 宮古空港から中心市街地までは、約15分で連絡している。中心市街地のバス停では、北小前（旧平良庁舎前）が比較的多く利用されている。
- ◆ また、多様化する交通手段の確保や高齢化への対応などの観点から、宮古島ループバス、がんずうあいのリタクシー等のMaas社会実験を行っている。



出典：沖縄総合事務局運輸部「運輸要覧」（統計みやこじま）

<中央交通 バス停利用者数（単位：人）>

バス停	平良港	公設市場	北小前	宮古空港	東急ホテル	シギラセブン マイルズ リゾート
2019年度(R1)	1,120	781	902	2,030	213	2,328
2020年度(R2)	814	848	1,112	1,634	524	2,099
2021年度(R3)	1,508	1,714	1,992	9,017	788	3,138

※2020年度の5月と2月は航空会社が運休によりバスの運行なし

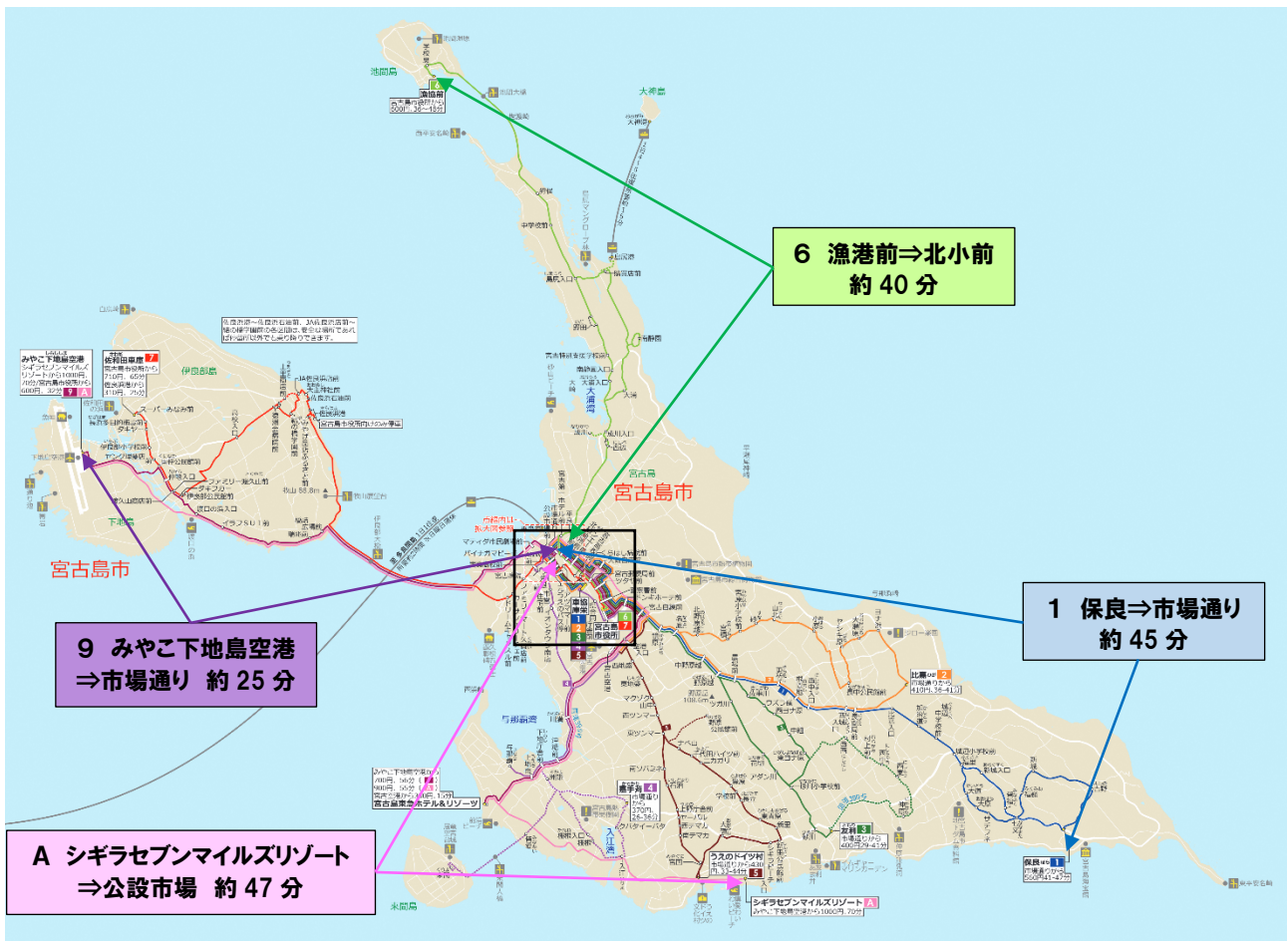
出典：宮古島市

<バス路線図>



凡例

系統	運行区間
1	協栄車庫～保良（宮古協栄バス）
2	協栄車庫～比嘉（宮古協栄バス）
3	協栄車庫～友利（宮古協栄バス）
4	協栄車庫～嘉手苺（宮古協栄バス）
5	協栄車庫～うえのドイツ村（宮古協栄バス）
6	宮古島市役所～漁協前（八千代バス）
7	宮古島市役所～佐和田車庫（共和バス）
8	—
9	宮古島東急ホテル&リゾート ～みやこ下地島空港（宮古協栄バス）
A	シガラセブマイルズリゾート ～みやこ下地島空港（中央交通）



出典：バスマップ沖縄

<宮古島ループバス>

宮古島ループバスは期間限定で運行しており、スマートフォンのモバイルアプリを通じたキャッシュレスとチケットレス乗車サービスを提供している。

(運行期間)

- 令和3年7月12日(月)
～9月5日(日)
- 令和3年12月26日(日)
～令和4年1月3日(月)
- 令和4年8月10日(水)
～令和5年2月28日(火)



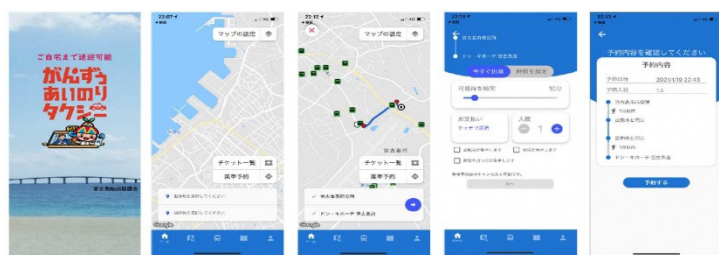
出典：宮古島ループバス HP、宮古島市総合都市交通体系調査業務報告書（令和4年5月）

<宮古島MaaS実証事業（がんずうあいのりタクシー）>

市内のタクシー事業者によって、国土交通省「日本版MaaS推進・支援事業」により、専用アプリによる相乗りタクシーの乗車予約や運賃決済のほか、一定期間（1日又は30日間）定額で乗車できる乗車券の販売（サブスクリプションサービス）や施設入場券と乗車券のセット販売など、お得なサービスを提供する実証事業を行った。

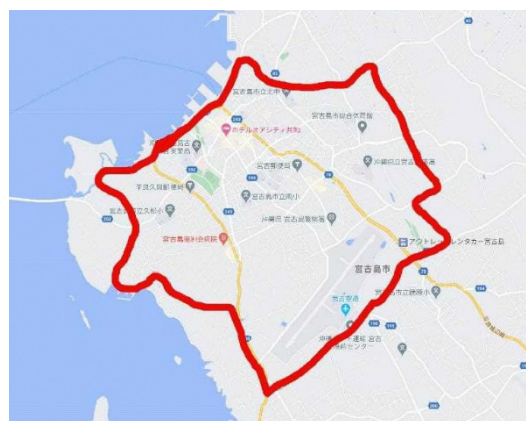
○実証期間及び運行時間

：令和3年1月25日(月)～3月15日(月)



▲アプリトップ画面 ▲乗車場所と降車場所の指定 ▲運行ルート決定 ▲乗車時間・チケットなどを選択 ▲予約の最終確認

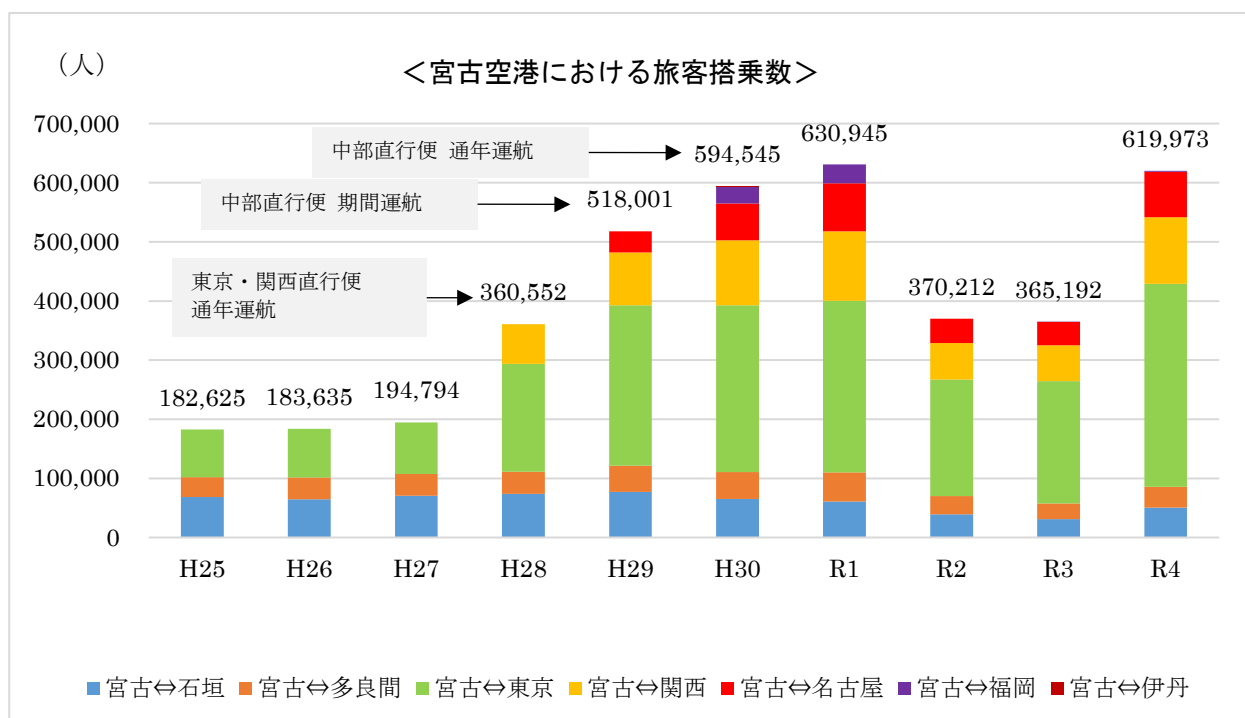
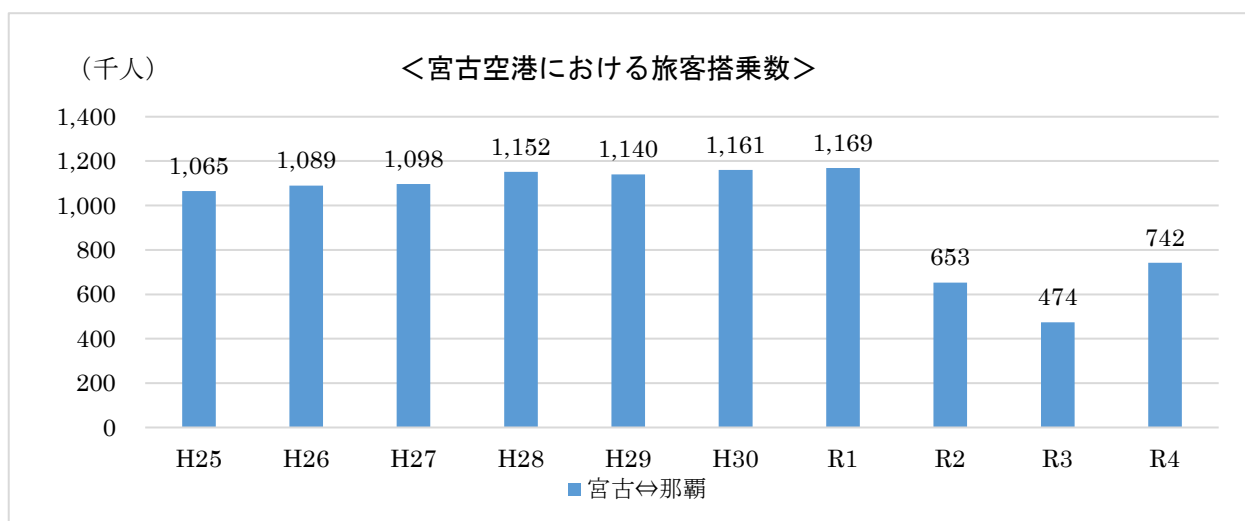
<乗車可能エリア>



出典：宮古島市総合都市交通体系調査業務報告書（令和4年5月）

②空港（飛行機）

- ◆ 市内には、空の玄関口として、宮古空港のほか、2018年（平成30年）3月30日に下地島空港が供用開始されている。
- ◆ 宮古空港は、那覇市とは空路で約1時間の距離にあり、年間100万人以上の利用で推移している。
- ◆ 2016年（平成28年）からは、全日本空輸（ANA）による東京・関西直行便が通年運航され、2路線で16万人の大幅増加となった。2018年（平成30年）からは、中部直行便の通年運航、福岡直行便の期間運航も開始され、乗降客数がさらに大きく増加している。
- ◆ また、空港からの観光客の移動はレンタカーが大半となっているが、新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、レンタカーが減少しており、コロナ禍後の観光客の移動手段の確保が新たな課題となっている。



出典：空港課（統計みやこじま）